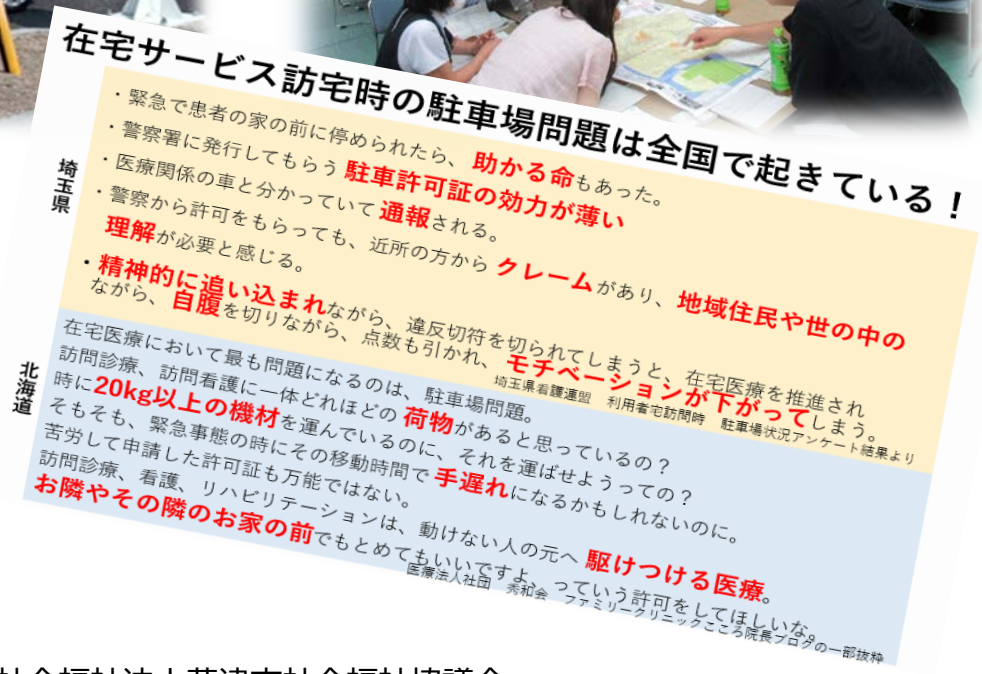
「ピカッと草津」老上･山田･笠縫東学区の地域づくりの３年間の物語
滋賀県社会福祉学会第４２回大会奨励賞受賞
第36回近畿地域福祉学会京都大会発表

在宅サービス訪宅時の駐車場問題から創る 地域包括ケアシステムの構築 ～生活支援体制整備事業の新たな地域づくり～



<草津市の福祉指標>

人口	140,007 人
世帯	64,313 世帯
高齢者数	31,007 人
高齢化率	22.19%
一人暮らし高齢者	5,291 人
高齢者のみ世帯	6,417 世帯

（R6.4 現在）

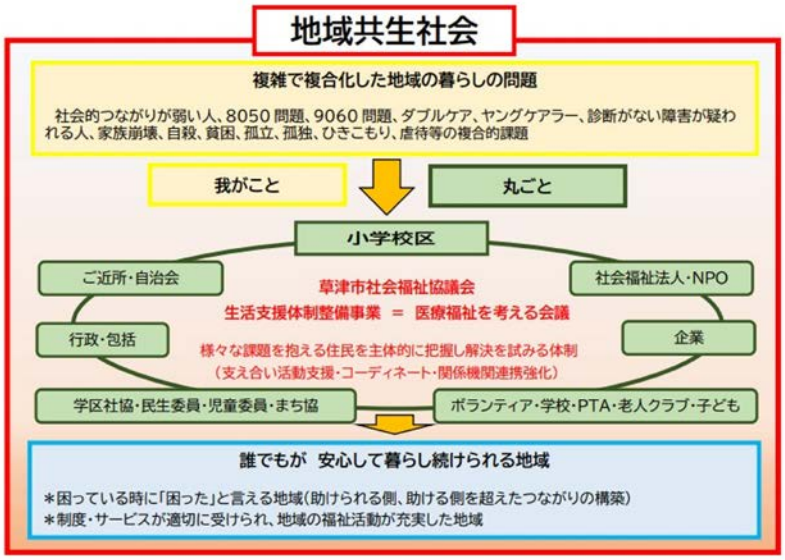
社会福祉法人草津市社会福祉協議会

1.はじめに

少子高齢化・核家族化等により、地域における縁、地縁、社縁といったつながりが希薄化している中で、現在の在宅障害者の約 7 割が高齢者、2025 年には団塊世代が後期高齢者となり、全国の約 6 割・滋賀県の約 4 割の高齢者が人生の最期を自宅で迎えることを望んでいます。

また、国の財政の厳しさから、施設等の増加は見込めず、より一層在宅化が進んでいくと考えます。

「誰もが住み慣れた地域で安心して住み続ける」ためには、在宅サービスが提供されやすい環境整備と地域福祉活動の充実が必要でありますが、その一方で「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」が浮き彫りとなり、その問題解決には、「在宅介護への地域理解」と「在宅サービスを提供する事業所(以下「事業所」とする。)と地域との連携」が必要であると考えます。そこで、在宅サービスが提供されやすい環境づくりに焦点を当て、生活支援体制整備事業第 2 層協議体(以下「協議体」とする。)で「事業所を応援する地域づくり」に取り組みました。



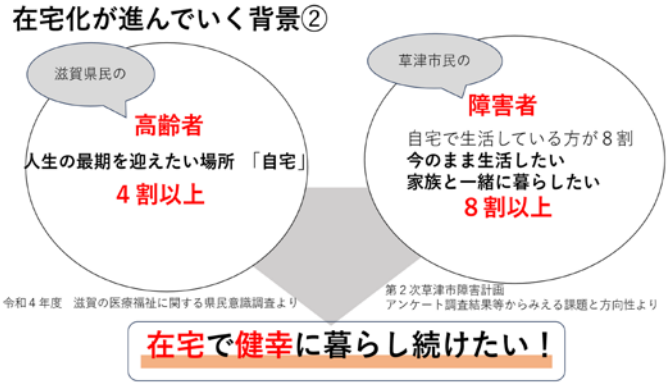
2.草津市での協議体の体制

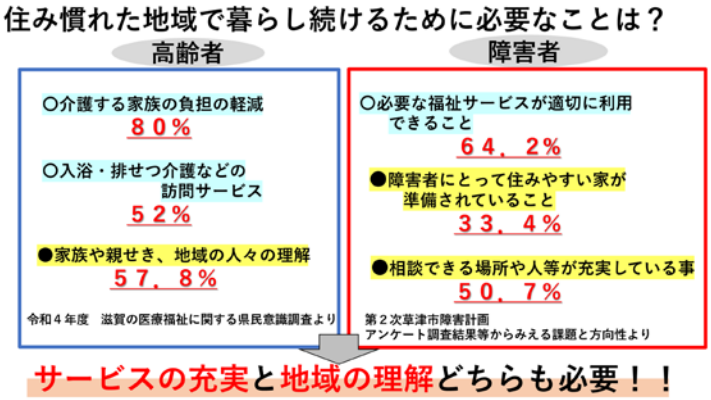
草津市では、平成 24 年度から、生活支援体制整備事業 2 学区をモデル化し、平成 27 年度からは、生活支援体制整備事業第 2 層協議体を受託しました。協議体は、14 小学校区の設置とし、協議体という言葉が地域では馴染みがないことから「医療福祉を考える会議」として実施しています。参加者は、学区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、まちづくり協議会、町内会長、各種団体、医師、介護事業所、地域包括支援センター、行政、市社協等地域によって様々な団体と専門職であり、地域の課題を語り合うことで、暮らしの問題を我が事と捉え、共感、共鳴することで新たな地域の助け合い活動や居場所づくりを進めています。そして協議体では、地域支えあい運送支援事業や居場所カフェ等の活動が広がっています。草津市社協は、滋賀県内でも 2 市しかない、地域福祉の推進で事業展開しており、介護サービス事業等を実施していない社協です。

3.今までの協議体の課題を踏まえた新たな取り組み

協議体は継続することに意味があると考えます。地域福祉活動は、時間をかけて住民主体で展開するもので、その展開には過程が大切であると考えます。しかし、長期にわたり協議体を実施してきた学区では、ある一定の活動が展開され、その活動維持に住民負担が増えて「これ以上地域に求めるのか、担い手がいないのに」という声がでてきます。特に高齢化による活動者不足は深刻であり、既存の団体維持をすることだけでも厳しい状況であります。地域福祉活動は、あくまでも住民主体活動であることから住民が主体性に意識を持っていただくまでに時間がかかり、その間に飽きる

たっては、令和４年度滋賀の医療福祉に関する県民意識調査と第２次草津市障害計画アンケート調査を検討し、住民が住み慣れた地域で暮らし続けるために必要と感じている夢をカタチにする協議体として、新しいワークショップ、ゲーム等（市社協考案）も取り入れて進めました。活動をつくるための学習だけでなく、住民の理解を広げ、新しい意識をつくるための物語として展開しました。STORY を全て魅せつつ、「気づき」の段階を明確化し、暮らしの中で問題となっていること等、現実に目を向け気づきから生まれる活動に丁寧に向き合い、本番会議を実施する前にプレ会議（専門職と地域代表者会議）、プレプレ会議（専門職）を最低２回実施し、共有と共感の輪を広げながら実施しました。





4.我が事・丸ごとの地域づくり

介護保険制度が始まり約２５年が経ち、当時は「介護の孤立」から「介護の社会化」といった制度の始まりでしたが、在宅化が進展していく中で、いろいろな課題があることに気づきました。事業所の困りごとを調査するとサービスを提供する前段階である駐車場がなくて困っているということがわかりました。この問題の広がりの程度を把握するために「事業所困りごとアンケート」を実施し、主に ３ 点の質問について回答をいただきました。

問①　「訪問の際、駐車場に困ったことがありますか」

問②　「駐車違反の罰則を受けたことがありますか」

問③　「事業所の車を家の前に停めないでほしいと言われたことがありますか」という内容で整理しました。アンケート結果内容は、問①では約 92％の事業所が駐車場に困まっており、サービスの提供が厳しい事業所もあることがわかりました。問②では約 31％の事業所が駐車違反罰則を受け、看護師、介護士の負担も大きいとのことでした。質問③では約 47％の事業所が家の前に停めないでほしいという声に「地域のサービスへの理解不足」が見えてきました。特に質問③の結果では、「近所から家族に苦情が入った」「サービスを利用していることを近所に知られたくない」「事業所名が入った車は停めないでほしい」「恥ずかしいと言われた」といった衝撃的な内容でした。

事業所困りごとアンケート（駐車場問題に関する項目のみ一部抜粋）

訪問の際、駐車場に困ったことありますか	33/36 事業所	・道が狭く車が入れないため、他のところに路上駐車している ・道幅が狭く迷惑をかけていないか心配 ・複数の事業所で伺う際、車が多くなるため停めるところがない ・駐車場がない場合、コインパーキングに駐車するかコインパーキングもない場合は、利用をお断りしている
駐車違反の罰則をうけたことはありますか	11/36 事業所	
事業所の車を家の前に停めないでほしいと言われたことはありますか	17/36 事業所	・用具の搬入時、近所から家族に苦情が入った ・介護サービスを受けている事を近所に知られたくない ・事業所名が入った車は停めないでほしいと言われた ・介護サービスを受けている事が恥ずかしいと言われた

「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」（３６事業所回答）
「サービスに対する地域の理解不足」

いつか自分や家族がサービスを受けるかもしれないのに我が事と感じていないと捉えました。その結果から、「在宅サービスの訪宅時の駐車場問題」「在宅サービスに対する地域の理解不足」の 2 つの課題が浮き彫りとなり、この課題を解決するべく、事業所の困っている声を直接伝える場をつくり、地域全体で共有する我がこと丸ごとの地域づくりを展開するため、市内の具体的事例、他県の状況や事例を出しながら進めました。

草津市の駐車場問題の事例

①お店に車を停めて急いで訪問から戻ってきた新人のヘルパーさんが店員から「罰金を払え」と怒鳴られ訪問が怖くなってしまった。

②危ない状態の利用者さんへの訪問で、家族は近くで見守りたいのに何度も通報されていないか確認しに行っていた。近くでは仁王立ちして車を見てくる人が・・・。

③ケアマネジャー、ホームヘルパー、訪問看護師、訪問医が最期のお見送りに行くと近所の苦情からすべて駐車違反の切符が切られた

こんな出来事知っていましたか？

5.草津市地域福祉計画策定に関するアンケート

「市民アンケート」による住調査結果について～草津市地域福祉計画策定に伴うアンケート抜粋～

1)市民の福祉への関心や福祉活動について、「あなたは福祉のどの分野に関心がありますか」の問いに「高齢者に関すること 61.2%」で一番関心のあることがわかりました。

2)市民の不安や悩み、相談先について、「あなたのお住まいの地域では、安心して生活していくうえで、どのような課題がありますか」の問いに、「保健・福祉サービスについて住民に知られていない 31.3%」が一番の理由となっていました。

3)市民の福祉に関する施策全般について、「みんなで地域社会を支え合いながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるまちを実現するためには、どのような施策や取組が必要だと思いますか」の問いに、「在宅サービスの充実が 44%」と一番必要と感じていることがわかりました。

4)市民の地域とのかかわりについて、「近所や地域での助け合いや支え合いの活動を活発にするためには、どのようなことを充実すべきだとおもいますか」の問いに「日頃から近所や助け合える信頼関係を築くが 56.4%」と 1 番でありました。

このことから市民は、高齢者福祉に関心があるものの、保健・福祉サービスのことが知らされていないために理解が広がらず、しかしながら在宅サービスの充実を求めていることがわかりました。

また、サービスの周知と充実以外に、安心して暮らし続けるには、日頃からの近所や助け合いの関係性も住民として築く必要があり、サービスの理解と充実そして、地域住民のつながりが大切であり、望んでいることがわかりました。

6.協議体での新しい物語の進め方

協議体での今回のテーマは「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」を中心にし、その問題を解決することをだけを目的にせずに、その過程で生まれる「サービスの理解」と「事業所と地域の関係性の構築」に力を注ぎ、そこから生まれる地域の福祉活動に期待し、「住民は気づけば必ず動き出す」市社協の歴史から学んだ信念を強く持って進めました。「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」は、住民意識の変化の物語として、「だれのために」「何のために」「どうするべきなのか」をいつも住民目線で考え、まずは「いろいろな福祉問題を知りましょう」からはじめながら、前回の振り返りを新聞化して大切に伝えていくことを実施しました。

下記の STORY は、最初に進めようと考えた物語の柱です。

Story1 は、滋賀県の平均寿命、健康寿命、サービスを利用する年数、高齢化の実態、学区の高齢化の進展や一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の現状、要介護認定率、在宅サービス利用者数等、在宅化の現状を知ることにより、サービスの必要性と活動の必要性を感じる。基礎データを背景に「地域を知る」ことを柱にしました。

Story2 は、事業所からの駐車場での困りごとを具体的に届け、住民の理解が進んでいないことを認識する場をつくる。事業所の助けての声を届け、住民からも「助けて」を受け止められる地域環境の変化を柱に進めました。

Story3 は、駐車場問題に光をあてながら、事業所の「助けて」は、自分にも帰って来ることの理解を広げました。事業所の問題を我が事と捉え、住民ができることや地域の中でどうしたら自分らしく暮らし続けられるのかを柱にしました。

Story4 は、駐車場問題を中心に事業所と地域が連携する必要性、事業所の利点、地域の利点を共有することで、自分たち自身が駐車場を探す意味を感じていただける場をつくりました。これは、共感・共鳴から協働の展開を進め、Passion（情熱・感情）から始まり、Mission（果たすべき役割）・Action（行動・活動）へ繋いでいく新しい地域づくりを進めました。今までは、Mission（果たすべき役割）から Passion（情熱・感情）を高め、Action（行動・活動）へ繋ぐ順番でしたが、今回の取り組みは、Passion（情熱・感情）から始まる新しい地域福祉として実践しました。これは、駐車場確保（Mission）といった結果が大切でなく、あくまでも住民意識の高揚、過程、思いを大切にした取り組みですので、 Passion（情熱・感情）に時間をかけて展開しました。

そして、事業所と地域、事業所と事業所の関係性構築が図れた時期を契機に、地域から事業所へ駐車場リストを渡す「地域助け愛応援駐車場リスト贈呈イベント」を実施し、継続的な取り組みの必要性を地域全体で感じることを柱に実施しました。

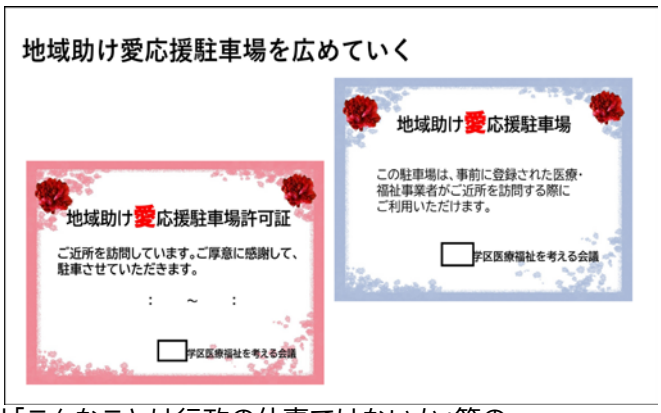
しかし、3 学区で同じように物語を進めても学区の特徴によって、取り組み方法はそれぞれ変化していきました。それが地域であり、学区らしさと捉え、次の会議へ進めるヒントとなりました。

7.地域の意識の変化こそこの問題の解決策

「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」は、駐車場が不足している現状を全て補完できる活動ではないと考えます。また、この問題の一番大切なことは、在宅サービスの問題を他人事として考え、隣人とのつながりがないことから他人事となり、通報する仕組みとなっていることです。事業所は、地域に遠慮して「助けて」と言えない関係性となっている現状があります。

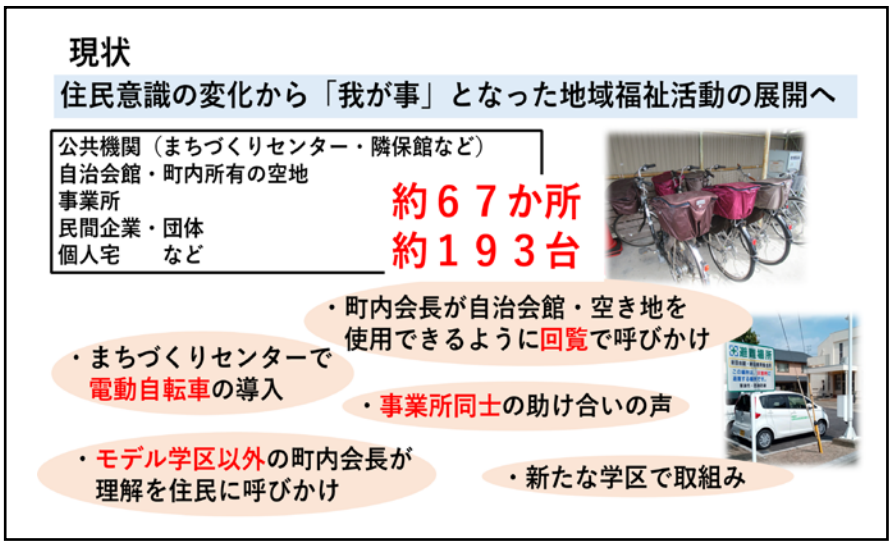
事業所は「適切なサービスを提供したい」地域は「適切なサービスを提供してほしい」望みは一緒のはずが、お互いが理解し合えないことで通報する側、される側となっています。企業、事業所、商店、個人等も地域の一員であり、どこかに必ず属していますが、そこに「いつか自分も必要となる」という「気づき」がなく暮らしているこ

とで「罰金を払え」と怒鳴ったり、「駐車違反１万円罰金」と張り紙をされたりすることが起きています。唯一この問題を少し改善できるとすれば、それは住民一人ひとりの意識の変化であり、住民自らが地域全体へ啓発することが大切であります。そのためのアイテムとしても３学区同じ地域支え合い愛応援駐車場カードを利用して地域全体に広げることが解決策であり、大切であると考えます。



8.「ピカッと草津」の地域づくりの成果

「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」を進めていく上で、最初は「こんなことは行政の仕事ではないか」等の声もありました。しかし、物語を進めていく中で、地域と事業所の関係性が深まることで駐車場をできるだけ確保しようではないかという地域の動きが生まれてきました。この動きには、会議内で「気づき」からサービスの現状を知っていく中で「やるべきこと」が見えてきたことから、約67か所約193台の駐車場の確保につながりました。この活動は、住民自らが理解を広げ生まれた駐車場だからこそ価値があります。その過程では、町内会長が全戸に回覧で住民の理解を呼び掛けたり、地域内の企業へお願いしていただいた結果であります。



また、笠縫東まちづくりセンターでは、事業所も使えるように電動自転車を設置、事業所や施設からも「空いている駐車場を使ってください」とこの事業のために駐車場を借りていただいた事業所もありました。

３学区同じように取り組んでも地域の特徴によって駐車場の運用の方法は違います。

笠縫東学区では、まちづくり協議会が主体となり、掲示がついたコーンを貸出する方法が生まれました。これは、まちづくりセンターと学区社協が連携して駐車場を探し、まちづくりセンターが貸出窓口となり事業所へつなぐ取り組みです。老上・山田学区は、各学区の事業所代表がGoogle マップを利用した共通ツールを用いて駐車場を共有する方法を考えていただきました。地域が情報を事業所へ伝え、事業所同士が連携してマップを更新し、共有する「地域と事業所」「事業所と事業所」の連携を進めながら活用する仕組みです。

地域と事業所の関係性の構築から駐車場を活用できるしくみが展開

モデル学区	在宅サービスの理解の広げ方	駐車場(地域からの宝物)の運用	備考
笠縫東 **地域**と**地域**連携	同じテーマで進めていても、それぞれの学区の特徴に応じて、進み具合や方法を変化しながら進めていった	**まちづくり協議会**が実施	コーンとカードを渡す。範囲は、**市内全域の事業所**からスタート
老上・山田 **地域**と**事業所**連携		**事業所**が**Googleマップ**を使って実施	事業所同士が連携し、Googleマップで管理。範囲は、**学区内事業所**からスタート

笠縫東：掲示が付いたコーンの貸出

老上・山田：Googleマップを更新、共有

そして他の地域でも広がりがありました。玉川学区の桜が丘町内会では、「ピカッと草津」の取り組みを聞きに来られ、町内会活動として住民への理解を広げ独自の方法で許可書を発行し、自治会館や空いている土地等を活用して実施しています。矢倉学区では、協議体で「ピカッと草津」を取り組み、学区自治連合会が各町内会へ活用できそうな駐車場を呼びかけ企業にも依頼していただいています。

現状　地域福祉活動の広がり

町内会や矢倉学区でも	在宅サービスの理解の広げ方	駐車場の運用	備考
桜ヶ丘町内会(700世帯)	自治会の取り組みとして実施	**町内会で管理**し、必要な事業所へ許可する	**町内会長が窓口** 範囲は、町内会世帯へ在宅サービスを提供している事業所
矢倉学区自治連合会(12町内会3,958世帯)	学区の町内会長会で**アンケートを実施**し、活用できそうな駐車場の**掘り出し**や**呼びかけ**	町内会からまちづくりセンターへ依頼し、まちづくりセンターで運用管理する	地域の在宅サービスへの理解を広げるだけでなく、すぐに**全町内会招集**し、駐車場の確保を進めている

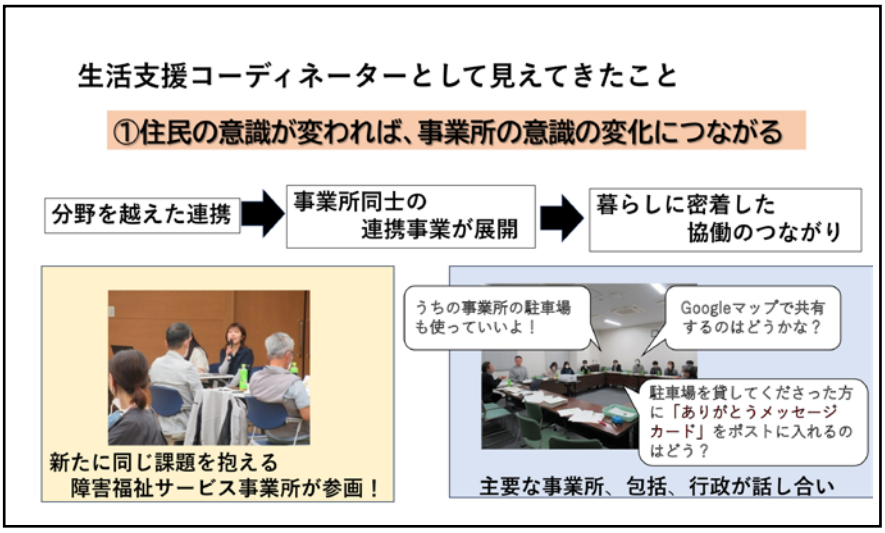
医療福祉を考える会議で取組を始めたことで

企業や神社から使っていいよの声

9.生活支援コーディネーターとして見えてきた３つのこと

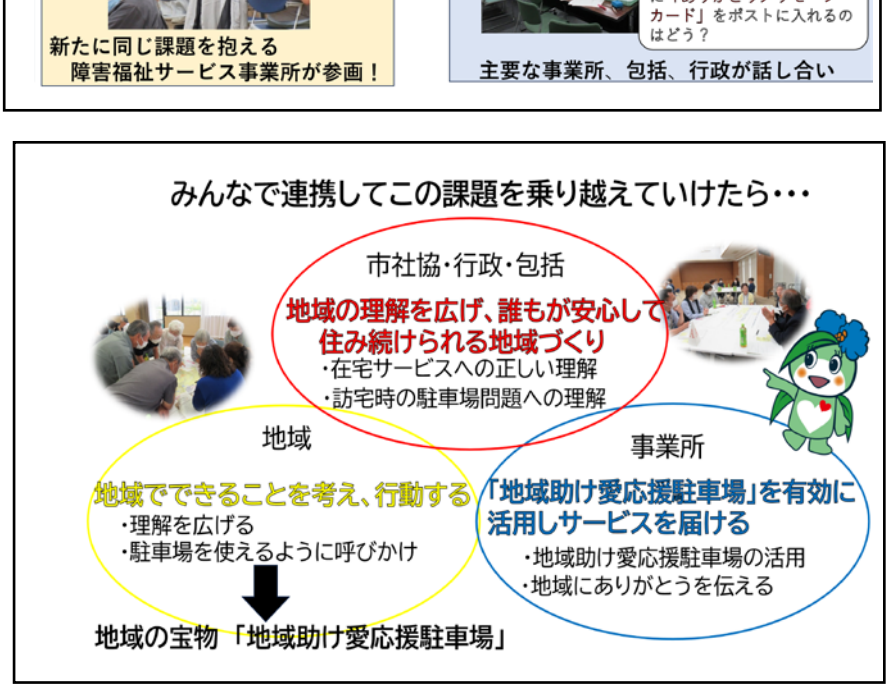
訪宅時の駐車場問題から創る地域包括ケアシステム構築の地域づくりでは、生活支援コーディネーターとして、３つの見えてきたことがあります。

１つは、住民の意識が変われば事業所の意識の変化につながるということです。地域からいただいた宝物である「地域助け愛応援駐車場」を事業所が「無駄にしたくない」ということで事業所が会議を開催し、新しい管理方法が生まれました。また、障害福祉サービス事業所も加わり分野を超えたつながりができました。

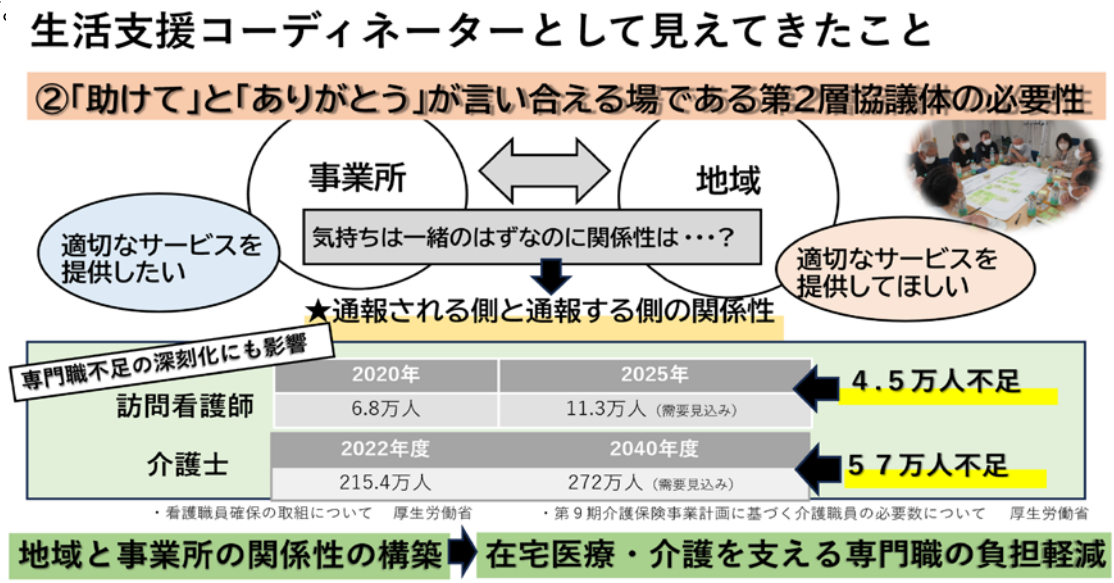


２つ目は、「助けて」と「ありがとう」がお互いに伝えられる場である協議体の必要性が見えたことです。地域は、自分たちができることを考える場であり、事業所は、自分たちの困りごとを多くの人に伝える場、市社協、行政、包括は、地域の暮らしの問題を多様な方々と語り解決策を一緒に考える場でありました。

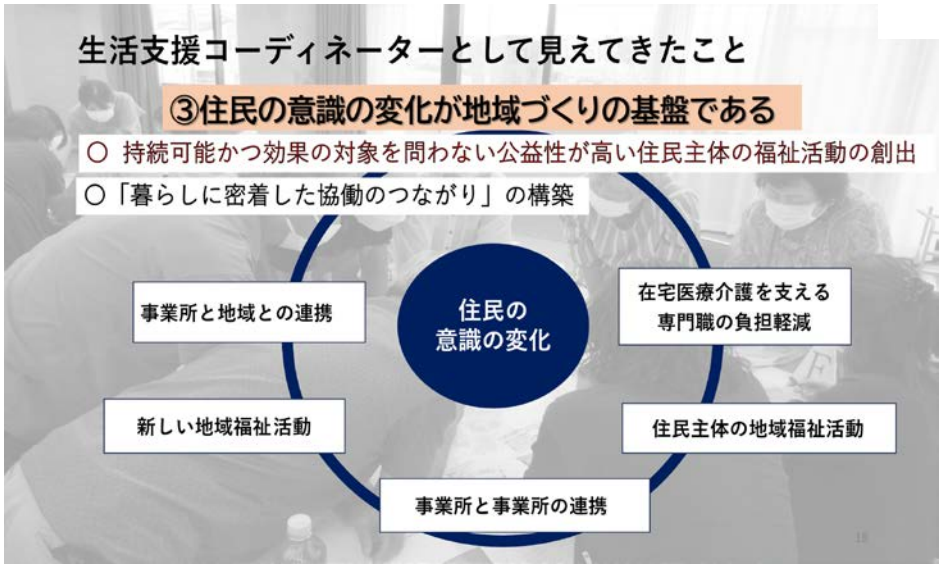
「助けて」と言って受け止められる場であることが協議体の価値であります。本当に大変な時の「助けて」を受け止められる地域の場は、それぞれの役割を理解しているので役割分担もでき検討されていきます。これからもっと必要になってくる在宅医療・介護を支える専門職が傷ついています。そのことも踏まえ地域と事業所が共に考えることにより、在宅医療・介護を支える専門職の負担の軽減につながると考えます。



また、地域と事業所どうしお互いが「ありがとう」を言い合える「ありがとうは心のパスポート」となる地域連携を目指しています。



３つ目は、「訪宅時の駐車場問題から創る地域包括ケアシステム構築の地域づくり」で一番大切に感じたことは、住民の気持ちを捉えて伝える大切さです。いろいろなことを調べて熱意をもって伝えることで、共感を生み、共感が広がれば「住民は気づいたら必ず動き出す」。多くの知恵を持ち、担い手不足や地域の歴史を超えてでも動き出します。そして、意識を持って住民が動けば地域全体が動き出します。事業所も企業もいろいろな人を巻き込みながら走り出します。



住民の願いである「安心して暮らし続けたい」という気持ちや夢を叶えようとする力は凄まじく、努力だと思えることすら我が事として動かれます。コーディネーターは、どれだけ本気で伝えようとしてきたのか、どれだけ心を揺らせたのかがみそであり「多くの知識の吸収と語り」が大切であることに気づかされます。多くの住民の力をいただき、無理だと思うことですら、越えていけるのは住民の意識の変化であると感じさせていただきました。この地域福祉活動は、持続可能かつ対象を問わない公益性が高い住民主体の活動だったと思います。地域づくりは素晴らしい。新しい世界が開けます。暮らしに課題を抱える人達を支えるのは、制度・施策だけではありません。まずは、地域の支え合い活動つまり地域セーフティネットで受け止め、課題を越えていくことが大切です。このセーフティネットの網目を細かくすることで制度で支える負担を減らしていくことができます。例えば、地域で実施してくださっている地域支え合い運送支援事業やカフェ・子ども食堂をはじめとする居場所づくりは行政が実施すると莫大な税金がかかります。つまり地域セーフティネットや市社協のセーフティネットの基盤強化が自分たちが住み続けたい地域づくりにつながります。また、困った時に助けてと言える福祉風土が生まれることも住民自身の利点です。本気の夢を語り合いましょう。

老上学区リスト

山田学区リスト

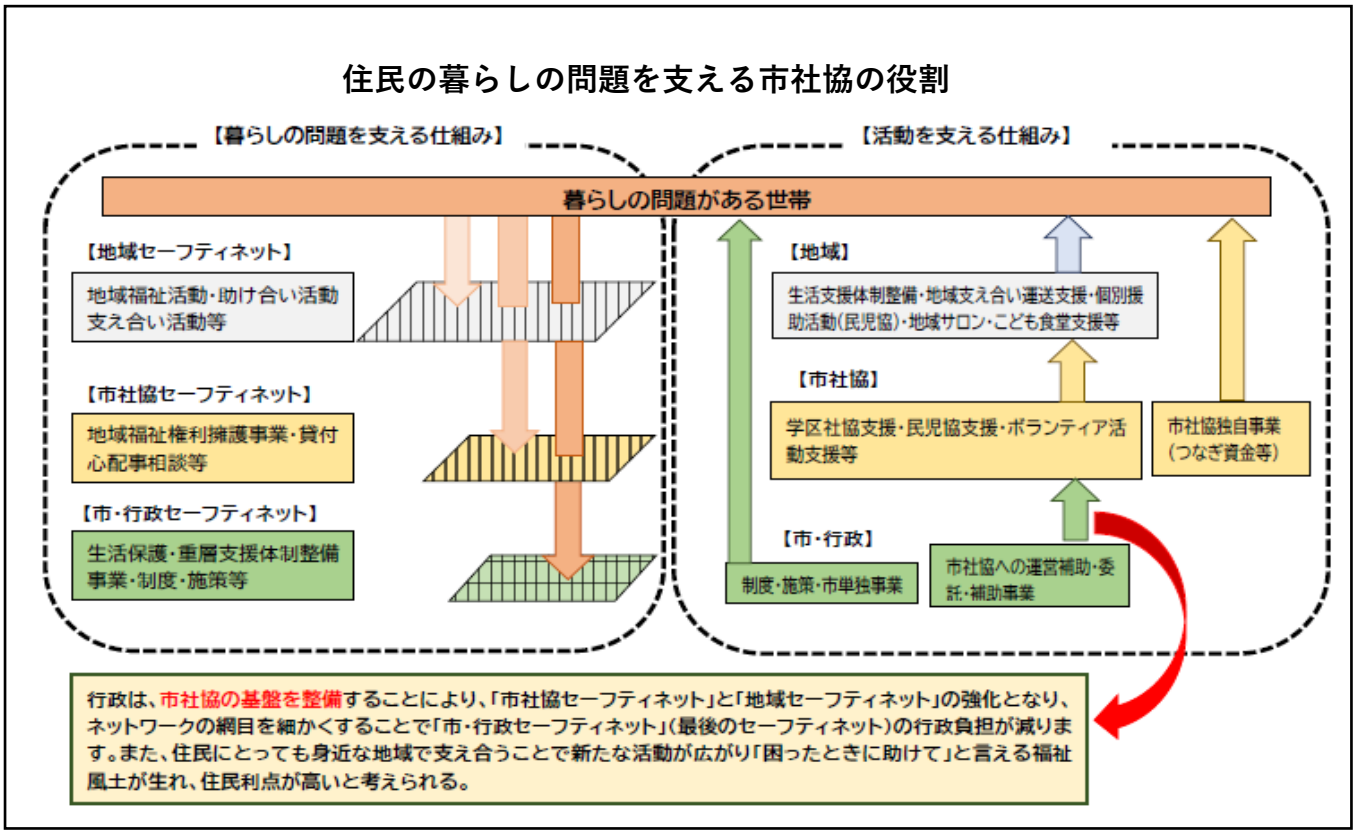
10.「ピカッと草津」の新しい物語

モデルで実施した３学区では、今後様々なテーマで医療福祉を考える会議を進めて行きますが、その中でも事業所との連携をベースとした「ピカッと草津」で構築した取り組みが進むことを期待します。２つの学区では、事業所の困りごとアケートで記載されていた「地域で支える生活支援」をテーマに進めるとも聞いています。

是非とも、「助けて」を受け止め暮らしの問題を解決する地域福祉活動や我が事丸ごとの地域づくりを推進し

ていただくことを期待しています。

また、行政が市社協の基盤をしっかり整備することで、地域セーフティネットや市社協セーフティネットが強化され、行政セーフティネットの負担が少なくなり、行政セーフティネットの深みをつくることに専念できると考えます。これこそが、住民の暮らしの問題を解決する行政・市社協・地域連携の姿であると考えます。



11.地域共生社会と地域包括ケアシステム

2025 年問題とは、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となり、医療や介護などの社会保障費の増大が懸念されるものです。団塊の世代が約 2,200 万人を超えると予想されており、国民の 4 人に 1 人が 75 歳以上という、超高齢社会に突入する中で、滋賀県民の約 4 割の方が、可能な限り住み慣れた地域や自宅で日常生活を送ることを望んでいます。また、在宅障害者の 6 割以上の方が高齢化しており、安心して暮らし続けるためには、地域包括ケアシステムの充実は必要不可欠であると考えます。地域包括ケアシステムは、ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・ 安心・健康を確保するため、 医療や介護、予防、 福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが適切に提供できるよう、地域における「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の 5 つのサービスを一体的なケア体制を構築しようすることであり、厚生労働省は、地域共生社会の実現に向けた今後の改革の骨格として、「地域課題の解決力の強化」「地域丸ごとのつながりの強化」「地域を基盤とする包括的支援の強化」「専門人材の機能強化・最大活用」と言われております。そのような中で 2022 年から取り組んできました「在宅サービス訪宅時の駐車場問題から創る地域包括ケアシステムの構築」～生活支援体制整備事業の新たな地域づくり～は、地域包括ケアシステムの充実と地域共生社会の実現の一歩になる取り組みであると考えております。地域課題の解決を地域丸ごとのつながりで専門職と協働して適切な在宅サービスを提供できる新しい地域づくりの取り組みです。今後の地域住民の意識の変化に期待したいと考えています。

12.モデル３学区の特徴と取り組み

<u><老上学区></u>　　生活支援コーディネーター ： 内田　萌花

○地域特徴

<福祉指標(R6.4 現在)>

人口	12,477 人	世帯	5,616 世帯
高齢者数	2,069 人	高齢化率	16.6%
一人暮らし高齢者	430 人	高齢者のみ世帯	544 世帯

1	県内でも上位に乗降者数が多い南草津駅周辺に位置し、急速に宅地化が進みマンションが多く建設されている。
2	人口は市内で２番目に多く、12,477 人（R6.3.31 時点）であり、人口の増加が一番高く、世帯数も多い学区である。
3	子どもの人数が２番目に多く、高齢化率は１番目に低い学区である。
4	H31 と R5 の高齢者人口を比較すると、市内で４番目に急激に高齢化している。
5	一人暮らし高齢者が市内で５番目に多く、新興住宅地やマンションで横の繋がりが希薄になりやすかったり、暮らしの問題が潜在化しやすいと言われている。
6	訪問サービス利用者数が市内で１番多い学区である。
7	新しくできた町内会と、昔からある町内会では暮らしの問題や意識が異なるため、我が事として受け止めることが難しい場合がある。

○物語

Story 1

①地域でのサービスを必要とする在宅高齢者が増える～地域の未来を感じる～
②地域福祉活動の良さとサービスの必要性～暮らし続けるために～

・平均寿命、健康寿命、健康寿命を伸ばすには？コロナフレイルって？
・地域困りごとのニーズを実感しよう
・事業所の困りごとのニーズを実感しよう
・地域福祉活動とサービスの両輪の必要性を感じよう

地域の声・・・

・地域でこんなことに困っているのか
・他人事ではない

① 地域でのサービスを必要とする在宅高齢者が増える～地域の未来を感じる～

市の方から「平均寿命と健康寿命の虚弱化する高齢者の現状と在宅化」についてお話しいただき、健康・元気に長生きすることの大切さを知っていただきました。

②地域福祉活動の良さとサービスの必要性～暮らし続けるために～

高齢者困りごと解決ゲームを用いて、絶対に助けられないと思った困りごとも、地域の福祉活動と制度・施策の両輪で越えられるものも沢山あると、必要性について楽しく学んでいただきました。
このように、まずは地域の課題に気づき、我がごととして考えることが大切でした。
気づきは地域福祉活動の第一歩となります。

Story 2
①事業所の悩みを聞き地域でできることを考える
②地域の中でサービスの理解を広げる

・サービスを知ろう
・サービス事業所からの悩み　（訪問駐車場の課題）
・サービス事業者の悩みを地域で　どうしたらいいのか、地域でできることを考えよう

地域と事業所のつながり

地域の声・・・

・このような問題があると知らなかった
・多くの方にこの問題を伝えたい
・明日は我が身
・共通のマークをつくってみては？

①事業所の悩みを聞き地域でできることを考える

事業所の方から直接事業所が抱える悩みを聞き、実際にどのようなことに困っているのか、そもそもサービスとはどんなことをしているのかを地域に知っていただき、自分たちには何ができるかなど感想を共有していただきました。

～事業所の話を聞き、感じたこと～

●「駐車スペースがなく事業所が困っていたことに気が付かなかった」
●「まずは多くの人にこの問題を知ってもらうことが必要」
●「駐車場問題を考えたこともなかった。よく介護事業所の車がとまっているのを見ているのに」

～今後考えていきたいこと～

●「地域からの働きかけや協力が必要」
●「気軽に利用できる場所が地域にあれば」
●「共通のマークをつくってはどうか」などがあがりました。

～老上学区として今後ピカッと草津を進めていくうえでの想い～

「自分が、自分の家族がそうなったらを考えてみる」「思いやりのこころ」「お互い様」
「支え合い見守りあえる地域を目指そう」「思いやり明日は我が身」「やさしさ想像力」

②地域の中でサービスの理解を広げる

事業所の話を聞いた上で、地域でここなら駐車場をあけられるのではないか、うちなら停めていない時間駐車場使っていいよなど、皆さんから駐車場候補地をあげていただきました。
事業所からは「この場に参加し地域のみなさんに自分たちも声を発信していくことが大切」だと声があがり、「ここで困っているんです」「この場所は駐車スペースどこかありますか」と地域に相談する様子も見受けられ、こうやって少しずつですが、事業所と地域が課題を共有し「助けて」と言いあえる関係性ができてきました。さらに、地域が応援することによって、個々の方へ良いサービスが返ってきます。サービスについて知り、我が事だと感じることがとても大切です。

Story 3　地域の力で住み続けたい老上に

・駐車場マッチンググループワーク
・事業所アンケートから、地域で協力できそうな駐車場を開けていこう

意識が変わる

広げていく

地域の声・・・

・地域サロンの活動場所に声かけれそう
・学区社協でお世話になっているところに話してみよう
・自分の家が空いてる時なら
・困っている場所を言ってもらえたので動きやすい

駐車場マッチンググループワークを通じて、町内会ごとに出していただいた地域であけられそうな駐車場と、事前にアンケートをとった事業所が開けてほしい駐車場とのマッチングを行いました。
会議後には、地域の方がマッチングした駐車場を開けにいっていただく依頼に地域を回ってくださりました。
例…
・高齢者の居場所である地域サロン活動でグラウンドゴルフをしている方が、活動場所に声をかけてくださいました。
・普段から学区社会福祉協議会が様々なイベントをされる際に協力いただいているこども園に声をかけてくださいました。
・自分の家の駐車場は開いている時間であれば使っていいよと言ってくださった方がおられました。
・ピカッと草津のチラシを持ち帰り、後日複数名で学区内にある学校にアポイントをとり、教頭先生に駐車

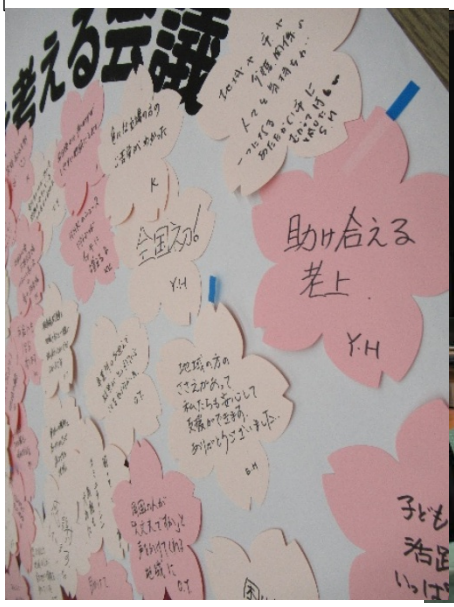
場問題について、ピカッと草津についてお話ししていただきました。例え駐車場をあけるのが難しいと言われても、駐車場問題やサービスの現状について、教育現場である地域の学校に知っていただけました。
・住んでいる町内の町内会長に依頼に行き、公園や公民館等を開けていただけました。
地域の方がストーリーを重ねるごとにこの問題を我がごとだと感じ、何かできることはないだろうかと本当に熱い気持ちをもって動いてくださったからこそ、これらの思いやりの駐車場ができました。

Story4

①3年間の軌跡を振り返る
②地域が駐車場へ依頼に行った際のお話し
③地域から事業所へ「地域助け愛応援駐車場リスト」の贈呈式
④事業所から受け取ったリストの運用方法について
⑤地域から振り返る3年間とこれから
⑥みんなで花を咲かせようワークショップ
★ピカッと草津の取組を聞いて感じたこと
★どんな地域にしていきたいのか・どんな地域なら住みやすいのか

地域応援駐車場理リストを事業所へ贈呈

～桜に書かれた想い～
○“一句”困ったが　形になるよ　老上は　ここに住みたい　そう思う街
○地域の力すごい
○人ごとじゃない自分の事
○町内でもこの問題を話し合いたい
○力を合わせると出来ることが広がる



地域と事業所の思いの見える化

○生活支援コーディネーターの感想

今回、3年かけて困ったことを困ったと事業所と事業所、地域と事業所が繋がり、顔の見える関係になり、言い合える場が強固なものになりました。これからもこの繋がりを大切に、医療福祉を考える会議をすすめていければと思います。なぜなら次のテーマも、その次も、老上学区のために、自分たちが住みやすい街にするためにどうすればいいかを考えるものだからです。他人事ではなく、まさに自分事なのです。誰かがしてくれる、ではなくいつかの自分や子どものため、1人では難しくても今回のようにこの医療福祉を考える会議の場で、困ったと声をあげていただき、地域自身が、専門職と一緒に、参加メンバーが変わっても、助けての声を受け止め一緒に考えて乗り越えていく老上学区でいてほしいと思います。今回、老上学区にはその力があるということを教えていただきました。たとえ形にならなくても、毎回40人程の方が3年間会議に参加し続けていただけたこと、意識が変化したこと、これが大切なことだと思います。ピカッと草津のように、この医療福祉を考える会議に失敗はありません。どんな形でも一歩ずつでも前に進んでいきます。そのためには地域が課題を感じ、共有し、できることから我が事として行動に移していくことが大切だと感じました。

話し合うことで
広がりを生む

＜山田学区＞　　生活支援コーディネーター ： 伊藤　美紗都

○地域特徴

<福祉指標(R6.4 現在)>

人口	7,782 人	世帯	3,486 世帯
高齢者数	2,415 人	高齢化率	30.7%
一人暮らし高齢者	319 人	高齢者のみ世帯	301 世帯

高齢化率は、30.7%と高く要支援要介護認定率は市内で1位である。

準要保護世帯も市内の中で多い。

地域のつながりは、希薄化が進んでいるものの、他学区と比較すると助け合いの関係性が構築されている。

○物語

Story 1　在宅化が増えていく現状・駐車場問題を知る

第２３回山田学区医療福祉を考える会議

・こんな課題があることを知らなかった。
・在宅サービス、苦労して担っていただいているのだなぁ。
・まず町内の人の理解を。安心して介護が受けられるように。
・うちの町内も停めるところ少ないな
・自らも年齢を重ねるし、介護を受けることは他人ごとではない。自分事として考えないと

① ピカッと草津の取組について

② 事業所の声を聞いてみよう

③ フリートークワークショップ～どう感じましたか。自由に語り愛ましょう～

在宅化が増えていく現状や駐車場問題があることをまずは知っていただき、駐車場問題について感じたことを自由に語り合っていただきました。

参加した多くの方から在宅化が増えていく現状や駐車場問題を知ったことで「事業所が苦労しなが

らサービスを届けていること」や「そういえばうちの町内も停める所少ないな」という気づきがありました。介護を受けることを、他人事ではなく我が事として受け止めてくださいました。「気づき」は地域福祉活動の一歩になります。

Story 2　事業所の声を聞く・地域と事業所の関係性づくり

第２４回山田学区医療福祉を考える会議

事業所

・医療福祉を考える会議に参加して声を発信することが大切だと思った。
・地域のみなさんが意欲的に行動してくださることがありがたい。
・町内会長さんから困ったら言ってと声をかけてくれてうれしかった。

地域

・「助けて」って言ってくれたらなんぼでも動くよ。
・そんな深刻な課題があるなら なんとかしないといけない。

地域と事業所のつながり

① 知ってそうで知らない事業所の声

② 「地元だから分かる！ここどうだろうワークショップ」

事業所から経験談や駐車場問題の事例を話していただくことで住民の理解が進んでいないことを知っていただきました。

そのお話を聞いた町内会長さんが「助けてっていってくれたらなんぼでも動くよ」と言ってくださり事業所さんからは、それがうれしかったという声を聞きました。

事業所さんたちからも「この場に参加し地域のみなさんに自分たちも声を発信していくことが大切」だと感じていただき、少しずつですが事業所と地域が課題を共有し「助けて」と言いあえる関係性が構築されました。

ワークショップで地域住民だからこそ分かる・知っている停められそうなところ（空き家・お店等）を学区社協のメンバーが作成した大きな地図をみんなで囲みながらお話をしていただきました。

お話をする中で「ここなら声をかけることができるよ」「うちの自治会館停めてもいいよ」などの会話が生まれ、呼びかけを強制せずとも自然と地域が主体となって解決のための案を出してくださいました。

Story３　地域でできることを形にしていく

第２５回山田学区医療福祉を考える会議

・町内でチラシを回覧するよ
・町内で全戸配布するよ
・地域サロンの人達にチラシを渡して話するよ
・日頃から隣近所でコミュニケーションをとり相互理解を図ることが必要

新聞　492枚
チラシ　71枚
みなさんが持って帰って
周知してくださいました。

意識が変わる

広げていく

① これまでの Story のふり返り

② 事業所から聞く駐車場問題の現状

③ 山田学区社協の思い

④ 理解を広げていこうワークショップ～誰もが安心して住み続けられる地域にしていくために～

Story3では、地域から出席してくださる役員さんが変わったことでもう一度丁寧に課題を知ってもらおうと振り返りや事業所の声をもう一度地域に届けました。理解を広げていこうワークショップでは、地域でできること、地域に理解を広げるためにはどうしたらよいのかを話し合っていただきました。町内会でチラシを回覧・全戸配布するよという声が挙がったり、地域サロンの人達や隣近所にお話するよという声もあがりました。新聞492枚、チラシ71枚みなさんが持ち帰り、周知啓発をしてくださいました。

地域の見えない努力に光を当てる

山田学区地域助け愛応援駐車場誕生秘話

・町内会長が隣保館をすべて停められるに足を運んで呼びかけをしてくださいました。
・ピカッと草津の新聞を全戸配布や回覧をして理解を広げてくださいました。
・医療福祉を考える会議に参加した町内会長が一軒一軒周り個人のお家に停められるよう呼びかけを行ってくださいました。
・事業所がよく駐車違反の切符を切られている団地の近くの空家に学区社協のメンバーが停められるように呼びかけを行ってくださいました。
・Story3の後、会議参加者が自治会館など使えるように町内会長にお話しにいってくださいました。
・学区社協メンバーが自治会館を使えるように町内会長にお話をしに行ってくださいました。

地域助け愛応援駐車場誕生の裏側には地域のみなさんの努力があります。
また、貸主の方も駐車場を快く貸してくださいました。これは、地域のみなさんの優しさが詰まった宝物です。

Story4　地域助け愛応援駐車場の贈呈式

① 「ピカッと草津」山田学区の物語

② 地域でどんな動きがあったのか

③ 地域から事業所へ「地域助け愛応援駐車場リスト」の贈呈式

④ 事業所からリストの活用方法について

⑤ 「みんなで花を咲かせよう」ワークショップ
★ピカッと草津の取組を聞いて感じたこと
★どんな地域にしていきたいか

事業所からのありがとうメッセージ

地域応援駐車場理リストを事業所へ贈呈
ありがとうは心のパスポート

ストーリー4では、地域から事業所へ完成した地域助け愛応援駐車場の贈呈式を行いました。
事業所の「助けて」から始まった話合いが地域のたくさんの方の力で形になっていきました。
会議に参加されたみなさんがそれぞれの想いを桜に込めてくださいました。

地域と事業所の連携や思いの見える化は、鮮やかな色合いとなり、会議に彩りを与えていただける。

桜に書かれた想い

・いろいろな立場の困りごとを共有できてよかった
・地域や事業所の垣根が低くなっていく取組
・他人ごとでなく我が事と考えられる意識改革がすばらしい
・「助けて」が形になっていくことを見ていて気持ちが温かくなった
・明日は我が身、忘れない！！
・いろいろな問題がありますが、話し合いが始まり、行動に移り実際に聞き合いが始まるストーリーが素晴らしい！
・なんとかしようが形になる地域
・優しい一言で助け合い繋がれる優しい山田
・地域と事業所の助け愛♡が光る山田学区

○生活支援コーディネーターの感想

今までは、地域と事業所がつながっていないために声は小さく助けての声が届いていませんでした。しかしこの場で地域が事業所の声に耳を傾け、意識の変化から住民の皆さん自らが行動し、事業所のみなさんもそれに応えようと意識の変化も起きました。
一つ一つ駐車場が開いた裏には誰かが、一生懸命動き、呼びかけをしてくださった方がいます。だからこそ事業所同士の連携も生まれました。

生活支援コーディネーターとして理解を広げるということは簡単ではありませんでした。何度お話しても「行政や市社協が解決することだ」と言う方、「駐車場の解決」だけを捉え、サービス利用者の個人情報の開示を請求する方など受け取り方は様々でした。

私たち草津市社協は、法や警察に訴えるのではなくこの課題の根底にある住民の理解不足に焦点を当てこれまで進めてきました。どう伝えたら趣旨がうまく伝わるのかを何度も試行錯誤し「多くの知恵の吸収と語り」を大切にしてきました。様々な意見から何度もブレそうになりながら上司と相談して目的をずらさず住民の意識の変化の大切さを訴え続けました。

しっかり受け止めてくださった山田学区社協のメンバーはもっと多くの人に伝えるにはどうしたらよいのかを考え、呼びかけにまわってくださった方、チラシを一緒に作ってくださった方、グループワーク用の大きな地図を作ってくださった方がいます。それぞれができることを考えみんなで力を合わせて取り組んできました。何度も挫けそうになるのを地域の方々に支えられここまでくることができました。この取組で生活支援コーディネーターのやりがいは、人づくり・仲間づくりにあると改めて思いました。

そして住民の意識の変化の大切さに気付いた方たちがどんどん動き始めました。一つの活動が集まると大きな力となり、山田学区だけではなく草津市を変える大きな取組となりました。
この取組はみんなが協力したからこそ実施できた取組です。
共にピカッと草津を走り続けてくださって本当にありがとうございました。

地域と事業所が一緒に語り、汗をかくことで思いが一つになる。そして、花が咲く。

＜笠縫東学区＞　生活支援コーディネーター：伊藤　美紗都

○地域特徴

＜福祉指標(R6.4 現在)＞

人口	10,892 人	世帯	4,886 世帯
高齢者数	2,798 人	高齢化率	25.7%
一人暮らし高齢者	455 人	高齢者のみ世帯	503 世帯

高齢化率は高く、一人暮らし高齢者・高齢者のみ世帯も多く、どれをとっても市内で上位に入ってくるのが笠縫東学区です。また、生活保護受給率は1，2を争うほど高い学区です。

地域のつながりは他学区と比べて強く、支え合いの関係性が根付いている一方、新しい町ではつながりが希薄化している。

○物語

医療福祉を考える会議

Story1　困りごと解決ゲームを通して在宅化の現状・在宅サービスと地域福祉活動両方の大切さを知る

13

①　地域でのサービスを必要とする在宅高齢者が増える～地域の未来を感じる～

市「平均寿命と健康寿命の虚弱化する高齢者の現状と在宅化」についてお話しし、健康・元気に長生きすることの大切さを知っていただきました。

②　地域福祉活動の良さとサービスの必要性～暮らし続けるために～

高齢者困りごと解決ゲームを用いて、絶対に助けられないと思った困りごとも、地域の福祉活動と制度・施策の両輪で越えられるものも沢山あると、必要性について楽しく学んでいただきました。

このように、まずは地域の課題に気づき、我がごととして考えていただきました。

医療福祉を考える会議

Story2　事業所の声を聞こう

事業所、地域どちらもが困った時に

お互いが「助けて」「ありがとう」と言い合える関係性の構築

① 公的サービスとは

新堂地域包括支援センターからサービスについてお話いただき、サービスは身近なものであること・在宅で暮らし続けていく中でとても大切であることを学んでいただきました。

② 知ってそうで知らない事業所の声

笠縫東学区では同じ課題を抱える障害福祉サービス事業所にも初めて参画いただき、駐車場問題で実際に困った事例をお話いただきました。

実際に張り紙をされたお話や怒鳴られたお話があり、地域の理解不足が専門職の離職につながることも知っていただきました。

③ ワークショップ

事業所の声・在宅化が進む背景を知って感じたこと、地域で理解を広げるためにできることを話合っていただきました。

みなさんが前向きに自分たちができることを話し合ってくださいました。

まちづくり協議会が主体！新たな仕組みが誕生「地域ささえ愛応援駐車場」

笠縫東学区では、まちづくり協議会が主体となり、地域の停められそうなところに呼びかけを行いました。その結果、地域ささえ愛応援駐車場を開くことができました。

使用したい場合は、まちづくりセンターに行きコーンを借り車の前に置くことで地域ささえ愛応援駐車場に停めることができます。

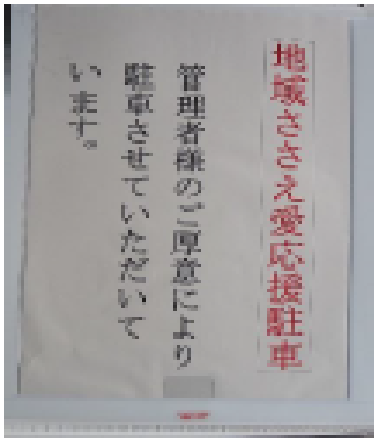
この取組は、まちづくりセンターが間に入ってくださっているからこそ2学区とは異なり、学区や市内・市外問わず必要な事業所が活用していただけるやり方です。

地域ささえ愛応援駐車場の利用について

1　利用手順

①	施設管理者への連絡 （必要な場合のみ）	・利用日時を施設管理者へ連絡する。 ・キャンセルする場合も施設管理者へ連絡する。
⇩		
②	駐車場利用当日（借用）	・笠縫東まちづくりセンターで必要事項を記入する。 ・カラーコーンと表示板を受け取る。
⇩		
③	応援駐車場利用時	・カラーコーン・表示板を車両前方に設置する。 ・車両ダッシュボード上に車両表示を置く。
⇩		
④	駐車場利用当日（返却）	・カラーコーンと表示板の汚れ、水滴を取り除き収納。 ・笠縫東まちづくりセンターへ返却する。

2　駐車表示用カラーコーン・表示板



新しい地域福祉活動の展開
アイデアは、住民主体活動の宝です。

3　車両表示（ダッシュボード上掲示）

地域ささえ愛応援駐車	
事業所名	
事業所住所	
事業所連絡先	
車両識別番号	（例　車両ナンバー、〇〇号車等）
その他必要事項	

4　注意事項

① 各施設ごとにルールがあるので、必ず順守すること。

② 車両に関わる事件・事故等が発生した場合は、事業所、施設管理者に連絡するとともに、誠意をもって対応すること。また、必要に応じて警察（１１０番）、救急（１１９番 ）への通報を行うこと。

③ ②の場合には、日時、場所、原因、経過、対応状況、現在の状況等を書面により笠縫東学区まちづくり協議会へ速やかに報告すること。

④ 駐車表示用のカラーコーン・表示板は笠縫東まちづくりセンターで貸し出すので、窓口で必要事項を記入の上、開館日時・時間内に返却すること。
開館日時は、月～土の8:30～17:15。（日・祝日、年末、年始期間は休館）

⑤ 笠縫東まちづくりセンターでは、居宅訪問時用の電動自転車の貸出を行っているので、必要な場合は窓口でその旨を伝えて借りること。

⑥ 「地域ささえ愛応援駐車場」は施設管理者のご厚意によって成り立つ事業であり、このことを主眼に置いて対応すること。

笠縫東学区まちづくり協議会
〒525-0015　草津市集町58番地8
草津市立笠縫東まちづくりセンター内
TEL　077-568-3164
FAX　077-568-3090
http://www. machikyou. jp /kasanuihigashi/
E-mail: kasahiga@machikyou. jp

〇まちづくり協議会の総会後地域のみなさんに知ってもらう

笠縫東学区でコーンの貸出をすることで、多くの事業所さんが地域ささえ愛応援駐車場を活用できるしくみがはじまることを知っていただきました。

事業所から特に困っている町内の事例などを聞き、我が事として感じてくださいました。

会議後、多くの方が「知らなかった」「うちの駐車場も停めていいよ」「町内でも話しとくわ」など声をかけてくださり、事業所の方からそういった地域の方の気持ちの変化が嬉しいという声をいただきました。

○生活支援コーディネーターの感想

笠縫東学区では、まちづくり協議会と連携することで他学区にはない、新たな仕組みが生まれました。「駐車場問題を切り口にサービスへの地域理解を広める」。同じ目的で始めたはずの3学区ですが、三者三様の進め方や仕組みが生まれました。

今回、笠縫東学区で実施したピカッと草津では、仕組みが生まれたこと以外にたくさんの成果がありました。初めて障害福祉サービス事業所を巻き込めたこと、まちづくり協議会と連携できたこと、多くの方が福祉の課題を我が事と感じていただけたこと、周知のために滋賀県南部介護サービス事業者協議会と連携できたこと、事業所と地域の関係性の構築ができたことです。

地域のみなさんは、課題を知ると「誰か」ではなく「自分や地域が」できることを前向きに捉え、考えてくださいました。

取組を通じて、感じたことは共感を生み、共感が広がれば「住民は気づいたら必ず動き出す」ということです。住民のみんなが動けば、予想できなかった解決策や新たな仕組みが生まれていきます。

無理だと思うことですら超えるのは、住民の意識の変化であると気づかせていただきました。

学区のまちづくり協議会総会で「ピカッと草津」を事業所と市社協で説明し,多くの住民の方々へ
共感の輪を広げました。

知っているようで知られていない地域の福祉活動をどう伝えるのかが大切です。

13.草津市、老上学区、山田学区、笠縫東学区のデータ比較

草津市について

住みよさランキング2023　近畿1位
住みよさランキング2024　全国10位

東洋経済新報社　住みよさランキング

全国　高齢化率　２９．１％
（R５．１０．１現在）

草津市	
人口	１３８，６００人
世帯数	６２，９７４人
平均世帯人数	２．２人
高齢化率	２２．４％
年少人口率	１４．６％
学区数	１４学区

写真引用：草津市ホームページ
高齢化率：内閣府　令和６年版高齢社会白書

3つの学区をモデル化

要支援要介護認定率が市内で１位

山田	
人口	７，７８２人
世帯数	３，４８６世帯
高齢化率	３０．７％
年少人口率	１２．１％
一人暮らし高齢者数	３１９人
高齢者のみ世帯数	３０１世帯

訪問サービス利用者数が市内で１位

老上	
人口	１２，４７７人
世帯数	５，６１６世帯
高齢化率	１６．６％
年少人口率	１９．６％
一人暮らし高齢者数	４３０人
高齢者のみ世帯	５４４世帯

準要保護世帯が多く、高齢者のみの世帯が市内２位

笠縫東	
人口	１０，８９２人
世帯数	４，８８６世帯
高齢化率	２５．７％
年少人口率	１４．９％
一人暮らし高齢者数	４５５人
高齢者のみ世帯	５３０世帯

草津市	
人口	１３８，６００人
世帯数	６２，９７４人
平均世帯人数	２．２人
高齢化率	２２．４％
年少人口率	１４．６％
学区数	１４学区
一人暮らし高齢者数	５，２９１人
高齢者のみ世帯	６，４１７世帯

令和６年４月１日現在（一人暮らし高齢者数・高齢者のみ世帯数は令和６年７月１日現在）

14.各学区参加メンバー

〇老上学区医療福祉を考える会議(ピカッと草津)参加メンバー

老上学区社会福祉協議会/老上学区民生委員児童委員協議会/老上学区まちづくり協議会/赤十字奉仕団老上分団/教育振興会/老上同和教育推進協議会/おぐまファミリークリニック/老上まちづくりセンター/老上こども園/老上ボランティア連絡協議会/保護司会/福祉委員/くさつ優愛保育園モンチ/カフェほっこり/老上ふれあい農業合校/健康推進員/更生保護女性会/町内会長/学区住民特別養護老人ホームやわらぎ苑/よつば訪問看護ステーション/居宅介護支援事業所夕照/指定居宅介護支援事業所ふれあい/ケアタウン南草津居宅介護支援事業所/だんらんの家南草津/楽通所介護事業所/居宅介護支援事業所からん/居宅介護支援事業所 Mats/草津ケアセンター/老上地域包括支援センター/草津市長寿いきがい課/草津市人とくらしのサポートセンター/草津市社会福祉協議会

〇山田学区医療福祉を考える会議(ピカッと草津)参加メンバー

山田学区社会福祉協議会/山田学区民生委員児童委員協議会/山田学区まちづくり協議会/町内会長/福祉委員/老人クラブ/地域サロン代表者/草津市上笠居宅介護支援事業所/小規模多機能型居宅介護事業所こころね/居宅介護支援事業所和花/草津市訪問看護ステーション/特別養護老人ホームえんゆうの郷/共生型デイサービス向日葵/でいさーびすとなりぐみ草津/居宅介護支援事業所きらら/草津市上笠デイサービスセンター湯楽里/松原地域包括支援センター/草津市人とくらしのサポートセンター/草津市社会福祉協議会

〇笠縫東学区医療福祉を考える会議(ピカッと草津)参加メンバー

笠縫東学区社会福祉協議会/笠縫東学区民生委員児童委員協議会/笠縫東学区まちづくり協議会/ボランティア委員/居宅介護支援事業所きらら/草津介護センター/草津市訪問看護ステーション/小規模多機能型支援事業所心/特別養護老人ホームゆうすいのさと/デイサービスなぎさ/草津市基幹相談支援センター/社会福祉法人こなん SSN/社会福祉法人若竹会/新堂地域包括支援センター/草津市役所　介護保険課/草津市役所長寿いきがい課/草津市役所障害福祉課/草津市役所人とくらしのサポートセンター/草津市社会福祉協議会

15.エピローグ-epilogue-

草津市生活支援体制整備事業は、介護保険法に基づき、地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態にならないための予防又は要介護状態等の軽減を図るための地域全体の体制整備を行っています。対象は、高齢者を主に、つながりの中で助け合いながら、住み慣れた地域で自分らしく生活できるまちを目指して、地域と一緒に困りごとや生活課題などについて考え、住民・専門職・行政が共に共有し、共感の輪を広げていくことを目的に医療福祉を考える会議として実施しています。生活支援コーディネーターは、医療福祉を考える会議の企画、調整役となり、「高齢になっても住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていける」ための話題提供者でもあります。そのために、地域の特性や生活課題(困りごと)を把握し、支え合いの仕組みづくりを地域と一緒に啓発し広げる取り組み等も行っています。

その中で、「地域福祉を進めるにあたり、3 つの大切なこと」がわかりました。

1.地域づくりは、「人づくり」で「つながりづくり」です。

地域をつくるということは、住民意識の高揚を図ることです。福祉風土や福祉感、住民の意識の変化までつくるということです。時間がかかります。「あきない」「あきらめない」を意識しましょう。

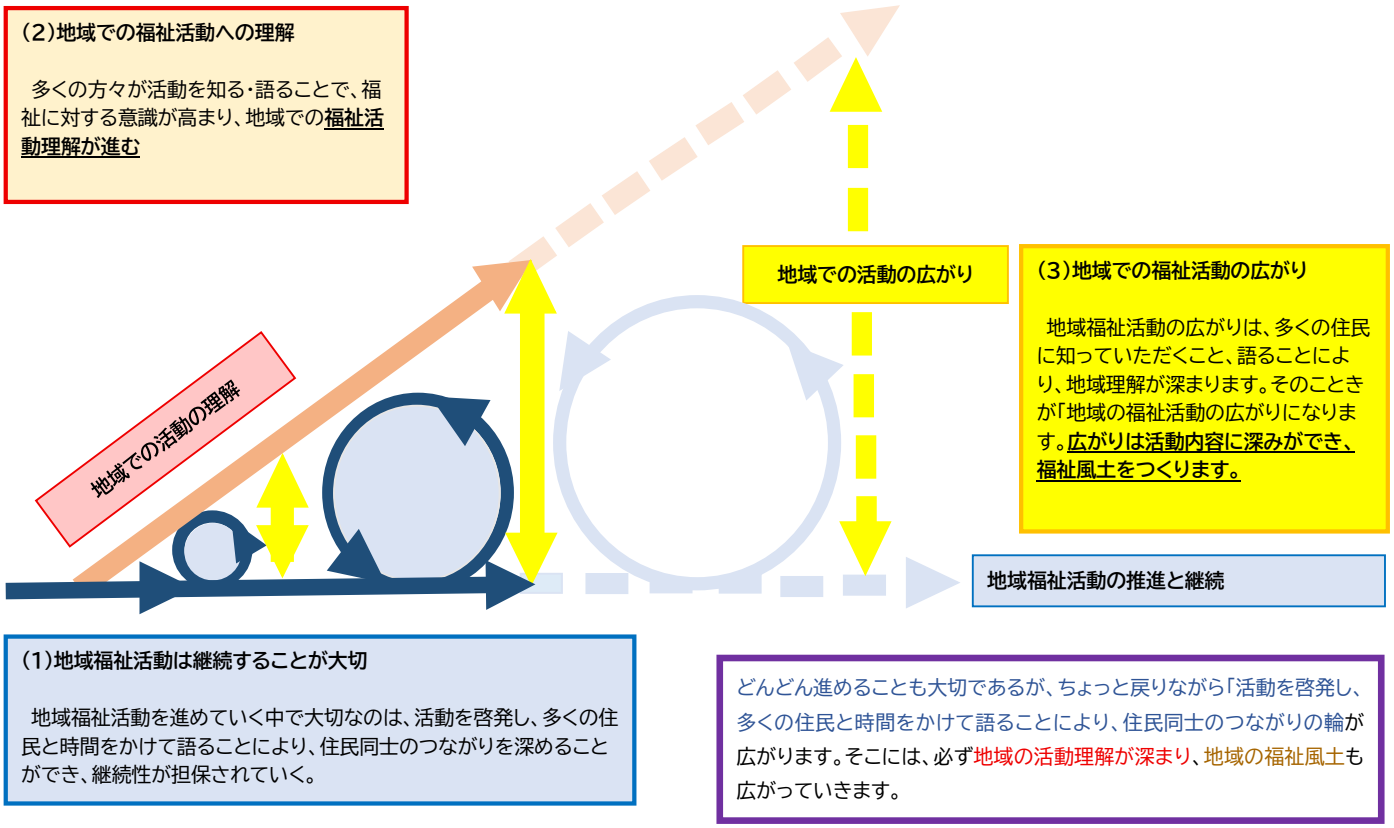
2.市社協、専門職、行政の意識を統一することが大切です。

縦割りを無くすのは、行政内部だけでなく、機関どうしも縦割りです。いいえ、地域も縦割りであるとも言えます。意識の統一は、思っている以上に大変です。「わかりあえない」ではなく「わかち愛」ましょう。

3.地域の課題解決の仕組みを「できる」「できない」で判断しないことです。

地域と一緒に考えると時に、「できないからしない」でなくその課題を地域の中で話題にできたことに価値を見出しましょう。「できた」「できない」でなく「伝えられた」かどうかが大切です。

地域福祉活動を啓発し、何度も語ることで福祉風土をつくる「丸ごとの地域づくり」



資料作成:草津市社会福祉協議会

地域福祉活動は、活動者だけの共有ではなく多くの人を巻き込みながら、仲間の円(縁)を大きくしていくことが大切であります。活動は課題解決のアイテムであり、アイテムは変化していくものであると考えます。その際には、一部の人のアイデアだけでなく多くの人の意見と地域全体へ周知・啓発をしていくことで、新しい深みのある活動に展開するものです。

また、活動を地域全体へ周知・啓発をすることで、多くの人たちの意識の変化をもたらし福祉風土の醸成になります。その過程こそが大切で、**「丸ごとの地域づくり」**であると考えます。

16.参考

草津市社協考案 15 のワークショップ集

令和７年２月28日

社会福祉法人草津市社会福祉協議会

草津市社会福祉協議会では、地域課題を我が事と共感できるワークショップを考え、各学区での生活支援体制整備事業第２層協議体や福祉講座等においてゲーム感覚で楽しい市社協独自のワークショップを展開しています。

●超えちゃったワークショップ～心が超えた瞬間(支え合い)愛が生まれます～

●いいね！ワークショップ～SNSの「いいねっ」を地域でやってみよう～

●劇団福祉～草津市素敵な物語寸劇は小さい時を思い出～

●愛のある３年クッキング活動のレシピ
～市社協が作ったレシピであなたの胃袋ゲット～

●素敵な物語　朗読会～草津市の素敵な物語あなたの心揺らします～

●10 年後のワークショップ～10 年ひと昔があっという間にやってくる～

●数字で感じる実感クイズ～各学区の高齢化、１等の現状クイズ～

●福祉すごろくゲーム～やっぱりゲームは双六が一番～

●世界の平均寿命と健康寿命～元気で暮らし続けるために～

●健幸「食」クイズ～知ってそうで知らない食をテーマにしたクイズ～

●看取りカルタ～在宅療養あるある川柳～

●ガチャガチャワークショップ～今日のテーマは運次第～

●6 回で作れる住民福祉活動計画ワーク～そもそも計画って何～

●褒め褒めリレーワーク～地域で感じることプロが感じること～

●素敵な言葉で彩る映え映えワーク～活動の成果を共有～

社会福祉法人 草津市社会福祉協議会
課 長　秋 吉　一 樹
主 任　伊 藤　美紗都
主 事　内 田　萌 花

※本誌の転載、複製、改変等は禁止します